

倫理学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
倫理学特論Ⅰ	ライプニッツ『形而上学序説』を読む	2	村山 達也	1学期	金	4	1
倫理学特論Ⅱ	ルサンチマンについて	2	戸島 貴代志	2学期	火	2	2
倫理学特論Ⅲ	哲学・思想を今考える ーハイデガー・ヘリゲル・禅を中心に	2	魚住孝至	集中(2学期)			3
倫理学研究演習Ⅰ	発表と討論	2	戸島 貴代志	1学期	月	5	4
倫理学研究演習Ⅱ	発表と討論	2	戸島 貴代志	2学期	月	5	5
倫理学研究演習Ⅲ	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	1学期	水	4	6
倫理学研究演習Ⅳ	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	2学期	水	4	7
倫理学研究演習Ⅴ	デカルト『方法叙説』講読	2	村山 達也	1学期	水	2	8
倫理学研究演習Ⅴ	道徳的相対主義をめぐる諸問題	2	村山 達也	1学期	金	2	9
倫理学研究演習Ⅵ	デカルト『方法叙説』講読	2	村山 達也	2学期	水	2	10
倫理学研究演習Ⅵ	利己主義をめぐる諸問題	2	村山 達也	2学期	金	2	11
課題研究 (倫理学)		4	戸島 貴代志 村山 達也	通年	月	1	

科目名：倫理学特論 I / Ethics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LM15401, **科目ナンバリング：**LHS-PHI647J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ライプニッツ『形而上学序説』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Leibniz, Discourse on Metaphysics

3. 授業の目的と概要：

十七世紀大陸合理主義の代表的人物であるライプニッツ (一六四六—一七一六) が自らの形而上学をはじめて体系的に提示した著作『形而上学序説』(一六八五頃) の内容を、第一節から順を追って解説します。その際、ライプニッツが論敵として意識していたデカルトやスピノザ、マルブランシュたちの哲学はもとより、まさにこの著作の内容をめぐる書簡をやり取りしたアルノーとの議論についても、ごく簡単に、必要な範囲で適宜補足します。

この著作について学ぶことで、西洋近世哲学についての基礎知識を得ると同時に、神、世界、魂 (そして認識、様相 (必然性や可能性) ……) についての統一的説明という西洋形而上学の一つの典型を簡明な仕方で概観することができ、さらに、哲学の古典を読む際に気をつけるべきことも学ぶことができます。また、とりわけ論争的文脈にも気を配ることで、ライプニッツ (たち) の哲学的思考それ自体にもできるかぎり肉薄したいと考えています。

4. 学習の到達目標：

- (1) 近世哲学やライプニッツについての基礎知識を学ぶ。
- (2) ライプニッツがどのような (独自の) 哲学的問題に取り組んでおり、どのような (独自の) 答えを提示したのかを学ぶ。
- (3) 哲学の古典に独力で取り組む力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：近世哲学ならびにライプニッツについての簡単な紹介
第二回：ライプニッツによる神の存在証明 (「理性に基づく自然と恩寵の原理」より)
第三回：『形而上学序説』第一—七節 (神について)
第四回：質問への回答
第五回：『形而上学序説』第八節 (真理と実体の関係について)
第六回：『形而上学序説』第九—十三節 (個体的実体について)
第七回：『形而上学序説』第十三節 (個体と様相について)
第八回：質問への回答
第九回：『形而上学序説』第十四—十六節 (能動と受動について)
第一〇回：『形而上学序説』第十七—二二節 (実体形相と自然について)
第十一回：質問への回答
第十二回：『形而上学序説』第二三—二九節 (認識について)
第十三回：『形而上学序説』第三〇—三二節 (自由と悪の存在について)
第十四回：『形而上学序説』第三三—三七節 (心身問題その他もろもろについて)
第十五回：質問への回答、ならびに全体のまとめ

各回とも該当箇所は事前に読んでいることを前提して解説します。また、挙手や指名、アンケートなどをつうじて質問を積極的に募り (講義冒頭に指名して訊くこともありえます)、できるだけ回答することを心がけます。そのため、以上の予定はあくまですべてが理想的に進んだ場合の予定であることをお断りしておきます。

6. 成績評価方法：

出席点 (四〇パーセント) + レポート (六〇パーセント)

7. 教科書および参考書：

以下のものが基本テキストです。ただし、必要なものはすべてプリントで配布します。

ライプニッツ (橋本由美子監訳) 『形而上学序説 ライプニッツ - アルノー往復書簡』平凡社ライブラリー。

Leibniz, Discours de métaphysique et Correspondance avec Arnauld, introduction, texte et commentaire par Georges Le Roy, J. Vrin, 1957.

8. 授業時間外学習：

上記のとおり、指定のテキストを事前に読んでいることを前提に講義します。

9. その他：

科目名：倫理学特論Ⅱ／ Ethics(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LM22203, **科目ナンバリング：**LHS-PHI648J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ルサンチマンについて

2. Course Title (授業題目)：

On 'ressentiment'

3. 授業の目的と概要：

ニーチェのいう「ルサンチマン」について、私たちの一般的な行動能力の観点から解明する。そのさいに「貴族と奴隸」および「強者と弱者」といったニーチェ自身の用いるカテゴリーの射程について、ニーチェの考えとは違った「機を逸しない行動」という視点からの解明も試みる。

4. 学習の到達目標：

「ルサンチマン」について、善悪の基本的なとらえ方を基にして、多面的な仕方で理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 強者と弱者 1
- 2 強者と弱者 2
- 3 貴族と奴隸 1
- 4 貴族と奴隸 2
- 5 ルサンチマン 1
- 6 ルサンチマン 2
- 7 ルサンチマン 3
- 8 反動と反感 1
- 9 反動と反感 2
- 10 機ということ 1
- 11 機ということ 2
- 12 良いと善いについて
- 13 善悪の起源
- 14 善悪のかなた
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

出席 5 割、レポート 5 割

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する

8. 授業時間外学習：

復習を重視して下さい。

9. その他：

オフィスアワーは随時

科目名：倫理学特論Ⅲ／ Ethics (Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期集中

学期：集中（2学期）， **単位数：**2

担当教員：魚住孝至（非常勤講師）

講義コード：LM98810， **科目ナンバリング：**LHS-PHI649J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

哲学・思想を今考える－ハイデガー・ヘリゲル・禅を中心に

2. Course Title (授業題目)：

Considering Philosophy and Thoughts from contemporary Perspectives
－focused on Martin Heidegger, Eugen Herrigel, and Zen Buddhism

3. 授業の目的と概要：

前半は、ハイデガーの『存在と時間』の問題意識とそこで展開された実存論を見る。そして、その試みが途中で挫折したので、西欧形而上学の根底に戻ってそれを批判し、別の始まりへと転回しようとした彼の思索の道を考える。後半は、同様の思想的課題を抱きながら、弓道修行を通して日本の禅に「新たな実存のあり様」を見出したヘリゲルを介して、日本の禅の修行と思想を遡って問題にするとともに、現代の哲学的な立場から、禅や身体論について問題にしている諸論を踏まえて、現代における人間論の可能性を考える。

4. 学習の到達目標：

西洋哲学の発想とその人間論を典型的に示すとともに、「哲学の終焉」を宣したハイデガーの思索の歩みを考える。現代においてグローバルに展開すべき日本の思想の可能性として、禅とそれに関連する思想を考える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 ガイダンス 現代における西洋哲学と日本思想の課題
- 第2回 ハイデガー『存在と時間』の構想と「世界-内-存在」
- 第3回 ハイデガー『存在と時間』における「死への存在」と歴史性
- 第4回 『存在と時間』の途絶と西洋形而上学の「何ゆえに」の問い
- 第5回 メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』における身体論
- 第6回 西洋形而上学とハイデガーの技術論「総かり立て体制」
- 第7回 後期ハイデガーの「何ゆえなし」と「放下」の思想
- 第8回 ヘリゲル『弓と禅』－身心の修行と禅の世界
- 第9回 ヘリゲル『禅の道』－ヨーロッパから見た禅と日本文化
- 第10回 鈴木大拙『禅と日本文化』－今日から見た問題点
- 第11回 禅の思想－『十牛図』と道元『正法眼蔵』
- 第12回 西谷啓治『禅の立場』と上田閑照『禅仏教』
- 第13回 湯浅泰雄『身体論』－東洋的身体論と修行論
- 第14回 「道・身心・修行」－新たな人間の可能性
- 第15回 まとめ 現代社会における人間のあり方についての展望

6. 成績評価方法：

授業の最後の短い感想（30%）、レポート（70%）を総合して評価する。

7. 教科書および参考書：

木田元『ハイデガーの思想』（岩波新書・1993）、オイゲン・ヘリゲル（魚住孝至訳）『新訳 弓と禅』（角川ソフィア文庫・2015）、その他、プリント作成予定

8. 授業時間外学習：

予習、復習を丁寧に行ってください。

9. その他：

科目名：倫理学研究演習 I / Ethics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LM11505, **科目ナンバリング：**LHS-PHI650J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

発表と討論

2. Course Title (授業題目)：

Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：

参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い (レジメ配布)、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. 学習の到達目標：

発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

6. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

発表者の予稿を精読し、質問に備える。

9. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅱ／ Ethics(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志（教授）

講義コード：LM21505， **科目ナンバリング：**LHS-PHI651J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

発表と討論

2. Course Title (授業題目)：

Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：

参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. 学習の到達目標：

発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

6. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

発表者の予稿を精読し、質問に備える。

9. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅲ／ Ethics(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志（教授）

講義コード：LM13402， **科目ナンバリング：**LHS-PHI652J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：

Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第2外国語としていない学生にも配慮する。

4. 学習の到達目標：

ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- | | |
|----------------------|----|
| 1. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 1 |
| 2. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 2 |
| 3. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 3 |
| 4. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 4 |
| 5. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 5 |
| 6. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 6 |
| 7. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 7 |
| 8. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 8 |
| 9. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 9 |
| 10. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 10 |
| 11. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 11 |
| 12. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 12 |
| 13. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 13 |
| 14. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 14 |
| 15. 総合演習：「現象学」と「存在論」 | 15 |

6. 成績評価方法：

発表7割、出席3割。

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

9. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅳ／ Ethics(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志（教授）

講義コード：LM23403， **科目ナンバリング：**LHS-PHI653J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：

Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第2外国語としていない学生にも配慮する。

4. 学習の到達目標：

ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 総合演習：「現象学」と「存在論」 1
2. 総合演習：「現象学」と「存在論」 2
3. 総合演習：「現象学」と「存在論」 3
4. 総合演習：「現象学」と「存在論」 4
5. 総合演習：「現象学」と「存在論」 5
6. 総合演習：「現象学」と「存在論」 6
7. 総合演習：「現象学」と「存在論」 7
8. 総合演習：「現象学」と「存在論」 8
9. 総合演習：「現象学」と「存在論」 9
10. 総合演習：「現象学」と「存在論」 10
11. 総合演習：「現象学」と「存在論」 11
12. 総合演習：「現象学」と「存在論」 12
13. 総合演習：「現象学」と「存在論」 13
14. 総合演習：「現象学」と「存在論」 14
15. 総合演習：「現象学」と「存在論」 15

6. 成績評価方法：

発表7割、出席3割。

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

9. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅴ／ Ethics(Advanced Seminar)Ⅴ

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LM13205， 科目ナンバリング：LHS-PHI654J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

デカルト『方法叙説』講読

2. Course Title (授業題目)：

Descartes, Discourse on Method

3. 授業の目的と概要：

デカルト（一五九六—一六五〇）が自らの哲学を簡略なかたちで提示した『方法叙説』（一六三七）第四部をフランス語で読みます。デカルト哲学が本格的に展開されているのはラテン語で書かれた『省察』（一六四一）のほうであり、『方法叙説』第四部は言うならその予告編でありダイジェスト版です。とはいえ、簡潔なので見通しがよく近寄りやすいだけでなく、固有の問題を含んだとても面白いテキストです（と私が言うまでもないでしょうが）。

フランス語テキストを読むと同時に、アルキエによる注釈（フランス語）や関連する研究論文・哲学書（日本語）などについての報告も挟むことによって、デカルトの思索をフランス語で辿り直しつつ現代の目から再検討することを目指します。

4. 学習の到達目標：

- (1) フランス語で書かれた哲学書を正確に日本語に訳せるようになる。
- (2) 哲学の古典から議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（デカルトと『方法叙説』についての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

6. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断する。

7. 教科書および参考書：

以下のものを基本テキストとします。必要なものはすべてプリントで配布します。邦訳は手に入れやすいものを各自で用意してください（邦訳はいずれも一長一短あり、それについては初回にお話しします。購入はそれ以降でも十分に間に合います）。

Descartes, Œuvres philosophiques, t. I, 1618-1637, éditées et commentées par F. Alquié, Garnier.

8. 授業時間外学習：

言うまでもありませんが、担当でないときも必ずテキストは読んでください。

9. その他：

科目名：倫理学研究演習Ⅴ／ Ethics(Advanced Seminar)Ⅴ

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LM15205, **科目ナンバリング：**LHS-PHI654J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

道徳的相対主義をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Moral Relativism

3. 授業の目的と概要：

「善悪は相対的なのか」「道徳的問題に客観的な答えはありうるのか」「競合しあうさまざまな価値観を前にして私たちはどうすべきなのか」といった問題、まとめて言えば道徳的相対主義をめぐる問題について、倫理学の入門書や論文・書籍の一部(いずれも日本語)を読みながら考えます。

担当者によるテキストの報告をもとにした議論を何回か続けたのち、五月なかば頃に四〇〇〇字程度のレポートを提出してもらい、それ以降は担当者によるレポート発表をもとに議論していきます。初回に(参加人数を勘案しながら)予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。

4. 学習の到達目標：

- (1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。
- (2) 倫理学的問題についてテキストをもとに自分なりの問題を設定し、論述できるようになる。
- (3) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。F81

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：導入&テキストの配布
第二回：倫理学の入門書の読解 (1)
第三回：倫理学の入門書の読解 (2)
第四回：倫理学の入門書の読解 (3)
第五回：倫理学の論文の読解 (1)
第六回：倫理学の論文の読解 (2)
第七回：倫理学の論文の読解 (3)
第八回：担当者によるレポート発表と議論 (以下同様)

6. 成績評価方法：

要約担当 (二〇パーセント) + レポート (六〇パーセント) + 議論への参加度 (二〇パーセント)

7. 教科書および参考書：

以下のものを予定しています(参加人数や参加者の希望により変化する可能性があります)。

- ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』第二章と第三章
- ・同『倫理学に答えはあるか』序章と終章
- ・マッキンタイア『美徳なき時代』第二章
- ・ネーゲル「価値の分裂」(『コウモリであるとはどのようなことか』所収)

8. 授業時間外学習：

演習で扱うテキストについては事前に熟読しておく必要があります。

9. その他：

【重要】前年度までに私の「倫理学の基礎」を履修済みである(単位は取得できていなくても構わない)ことが望ましいですが、必須の条件ではありません。ただし履修していない場合は、倫理学の入門書一冊ぶん程度、こちらが指定する内容について自習していただくことになります。初回に相談してください。

科目名：倫理学研究演習VI／ Ethics(Advanced Seminar)VI

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LM23206， 科目ナンバリング：LHS-PHI655J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

デカルト『方法叙説』講読

2. Course Title (授業題目)：

Descartes, Discourse on Method

3. 授業の目的と概要：

デカルト『方法叙説』第四部を前期からの継続で読みます。読み終わった場合は、『方法叙説』第二部（精神を導く四つの規則についての箇所）や第三部（備えの道徳についての箇所）、ないし『方法叙説』に関連する所管の抜粋を読みます。これらについても、アルキエによる注釈（フランス語）や関連する研究論文・哲学書（日本語）などについての報告も挟むことによって、デカルトの思索をフランス語で辿り直しつつ現代の目から再検討することを目指します。

なお、後期からの参加もちろん歓迎です。

4. 学習の到達目標：

- (1) フランス語で書かれた哲学書を正確に日本語に訳せるようになる。
- (2) 哲学の古典から議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

6. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断する。

7. 教科書および参考書：

以下のものを基本テキストとします。必要なものはすべてプリントで配布します。邦訳は手に入れやすいものを各自で用意してください（邦訳はいずれも一長一短あり、それについては初回にお話しします。購入はそれ以降でも十分に間に合います）。

Descartes, Œuvres philosophiques, t. I, 1618-1637, éditées et commentées par F. Alquié, Garnier.

8. 授業時間外学習：

言うまでもありませんが、担当でないときも必ずテキストは読んでください。

9. その他：

科目名：倫理学研究演習VI／ Ethics(Advanced Seminar)VI

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LM25204, **科目ナンバリング：**LHS-PHI655J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

利己主義をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Ethics of Egoism

3. 授業の目的と概要：

「人のための行為というのも、結局は自分のために過ぎないのではないか」「人は利己的にしか行動できないのではないか」というより、人は利己的にふるまうべきなのではないか」といった問題、まとめていえば利己主義をめぐる問題について、倫理学の入門書や論文・書籍の一部（いずれも日本語）を読みながら考えます。

担当者によるテキストの報告をもとにした議論を何回か続けたのち、五月なかば頃に四〇〇〇字程度のレポートを提出してもらい、それ以降は担当者によるレポート発表をもとに議論していきます。初回に（参加人数を勘案しながら）予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。

4. 学習の到達目標：

- (1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。
- (2) 倫理学的問題についてテキストをもとに自分なりの問題を設定し、論述できるようになる。
- (3) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：導入&テキストの配布
第二回：倫理学の入門書の読解（１）
第三回：倫理学の入門書の読解（２）
第四回：倫理学の入門書の読解（３）
第五回：倫理学の論文の読解（１）
第六回：倫理学の論文の読解（２）
第七回：倫理学の論文の読解（３）
第八回：担当者によるレポート発表と議論（以下同様）

6. 成績評価方法：

要約担当（二〇パーセント）＋レポート（六〇パーセント）＋議論への参加度（二〇パーセント）

7. 教科書および参考書：

以下のものを予定しています（参加人数や参加者の希望により変化する可能性があります）。

- ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』第五章と第六章
- ・ブラックバーン『ビーイング・グッド』
- ・その他、モラル・サイコロジーや進化倫理学の入門書・論文など

8. 授業時間外学習：

演習で扱うテキストについては事前に熟読しておく必要があります。

9. その他：

【重要】前年度までに私の「倫理学の基礎」を履修済みである（単位は取得できていなくても構わない）ことが望ましいですが、必須の条件ではありません。ただし履修していない場合は、倫理学の入門書一冊ぶん程度、こちらが指定する内容について自習していただくことになります。初回に相談してください。